

2015年冬のボーナス予測**～前年比▲1.5%と、夏に続いての減少を予想～**

発表日：2015年11月10日（火）

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 新家 義貴 (TEL:03-5221-4528)

副主任エコノミスト 高橋 大輝 (TEL:03-5221-4524)

- 民間企業の2015年冬のボーナス支給額を前年比▲1.5%（支給額：37.0万円）と予想する。2015年夏（▲2.8%）に続き、2季連続の減少になるだろう（冬のボーナスとしては2年ぶりのマイナス）。
 - 2015年夏のボーナスは前年比▲2.8%と大幅に減少した。これは、①14年夏のボーナスの伸びが高かったことの反動、②15年賞与の基準となる14年度の増益率が13年度対比で明確に鈍化していたこと、③パート比率の上昇や高齢者再雇用による平均賞与額の下押し、④中小企業のボーナスが弱かった可能性、⑤サンプル要因など、複合的な要因が影響していると考えられる（※）。
- （※）詳細は、11月10日発行 Economic Trends 「夏のボーナスはなぜ減少したのか ～サンプル要因のみでの説明は困難。実態としても弱かった可能性大～」をご参照ください。
- 今冬のボーナスでも状況に大きな変化はなく、夏と同様に下押し要因として働く見込みだ。各種アンケート調査では冬のボーナスも増加が見込まれているが、毎月勤労統計では前年比マイナスになる可能性が高いだろう。また、足元で景気が足踏み状態にあることが、中小企業を中心としてボーナス抑制要因として働く可能性もあり、リスクは下振れである。
 - 国家公務員のボーナスは前年比+0.6%と小幅増を予想する（2015年夏：+5.7%）。支給月数の増加を背景に前年比増額が見込まれる。ただし、平均年齢の低下などを背景に平均給与月額が下がるため、賞与全体でみれば伸び率は小幅なものにとどまる可能性が高い。
 - 民間企業の冬のボーナスは減少が予想され、期待外れの結果に終わるものと思われる。所定内給与でプラスが定着しつつあることなど、賃金全体では緩やかに改善していることや、雇用者数が着実に増えていることなどを踏まえると、今後も雇用者所得が増加する可能性は高いと思われるが、ボーナスが弱い分、所得の増加ペースは緩やかなものにならざるを得ないだろう。

2015年 冬のボーナス予測(民間企業、前年比)

	13年		14年		15年	
	夏	冬	夏	冬	夏	冬(予測値)
一人当たり支給額	-0.1	-0.1	2.7	1.9	-2.8	-1.5
支給対象者数	1.1	1.8	2.6	2.4	2.0	2.0
支給総額	1.4	2.1	5.8	4.8	-1.7	0.5

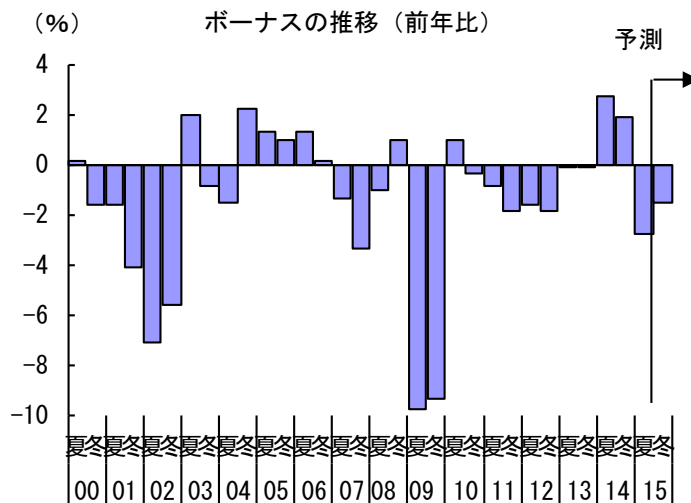
(出所) 厚生労働省「毎月勤労統計」より第一生命経済研究所作成

(注) 1. 民間企業は従業員規模5人以上、パートタイム労働者含むベース

2. 支給対象者数：民間企業＝ボーナス支払い時期の常用雇用者数×支給対象従業員割合

3. 支給総額：一人当たり支給額×支給対象者数

4. 前年比の増減率は、実額から計算した場合と一致しない。



(出所) 厚生労働省「毎月勤労統計」

(※) 予測は第一生命経済研究所